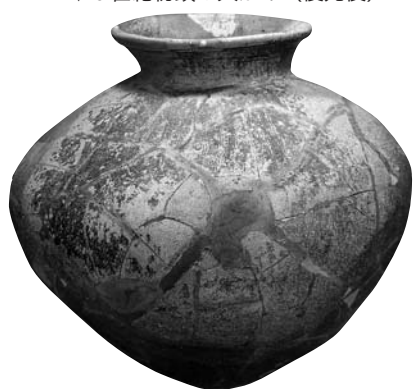
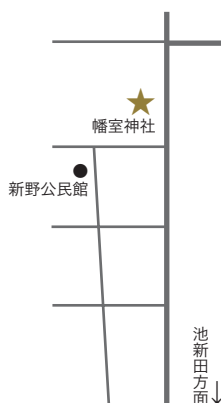




▼6世紀初頭の大がめ（復元後）



●市内新野地区



埋蔵文化財包蔵地 幡室古墳

History

キラリを再発見

市内唯一の造り出し付き円墳

新野地区にある幡室神社の社殿が建つ丘が、古墳である可能性があることから、平成18年度に確認調査と測量調査が実施されました。調査により、直径約28㍍、高さ約4㍍の円墳であることが判明。円墳西側には、11㍍×7㍍程の低くて平らな方形の部分が造り出されていました。

幡室古墳からは、6世紀初頭ごろに造られた大きなかめが、周溝に投げ込まれたような状態で出土しました。これにより古墳を造る際の供献儀礼が執り行われていたことがうかがわれます。また、幡室古墳は、前方後円墳の前方部が極端に小さく造られた帆立貝のような形をしています。同じ6世紀初頭ごろに造られたと推定される菊川市下平川の朝日神社古墳も、幡室古墳と似たような形をしています。菊川流域の首長は、大型の前方後円墳を造るだけの地位が維持できなくなったと推察されます。

Atomic

暮らしと原子力

複合災害を想定した訓練を実施

停止中の中部電力浜岡原子力発電所で、地震と津波により発電所が深刻な事故に至ったことを想定した「静岡県原子力防災訓練」が2月17日に実施されました。

複合災害を想定した訓練は初めての試みで、国・県や周辺4市、中部電力の職員が参加しました。今回の訓練は、マグニチュード(M)8の地震と津波により発電所の全交流電源が喪失し、原子炉の燃料が冷却できなくなったと想定。放射性物質放出の危険が高まった状況での防護対策の準備や住民避難の手順やルートなどを図上訓練などで確認していきましました。

石原茂雄市長は「市民への避難情報の伝達が今後の課題。次回からは市民にも参加してもらい、訓練を重ねていきたい」と話しました。



被害情報を地図上に落とし込む市職員



提供：中日新聞社

県災害対策本部とのテレビ会議